

＜過去1週間の動き＞

(10月13日～10月19日)

USD/ZAR: 17.9525～18.5850
ZAR/JPY: 7.94～8.28 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、2020年5月来の安値を更新する18.5850までの急落が先行。その後反発したものの、18.0を上抜けた水準で頭打ち、引き続き16ヵ月ぶりの安値圏を抜け出すには至らなかった。13日の乱高下は、明らかにドル主導の値動き(ドル全面急騰→ドル全面急落)。同日発表された米8月CPIが前年比+8.3%と市場予想(同+8.1%)を上振れ、米連銀による大幅利上げ継続が確定したとの読みでドル全面高が一巡した。ほどなくドルは(対円を例外に)急反落することになったが、この局面のドル売りの要因は釈然としなかった。ただ、米株の急反発が一連の値動きを主導したのは確かで、結局、「強めのCPIを当て込んで積み上がっていた持ち高(株売り、ドル買い、商品売りなど)が、材料出尽くしで、一気に巻き戻しを強いられた」との解説が広く受け入れられた。前後して円全面安が進んだことから、ランドも、対円では、(一時的な下振れを除き)ほぼ一貫した上昇。対ドルでも、上下動を見ながら、18日までに18.0を上抜ける水準(17.9525)まで反発した。ただ、ランドを押し上げるような要因があったかと言うと、特段は見当たらず、ランド相場の関心は19日の南ア9月CPIに移っていった。発表されたCPIは、敢えて、市場予想を僅かながら下回る内容と言えたものの、南ア準備銀の追加利上げ見通しに対しても、ランドの値動きに対しても、目に見える影響は与えなかった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/13	9:30	鉱業生産(前年比)	8月	-5.9%	-6.9%	-8.2%r
10/19	8:00	CPI(前年比)	9月	+7.5%	+7.6%	+7.6%
	11:00	小売売上高(前年比)	8月	+2.0%	+4.9%	+8.9%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

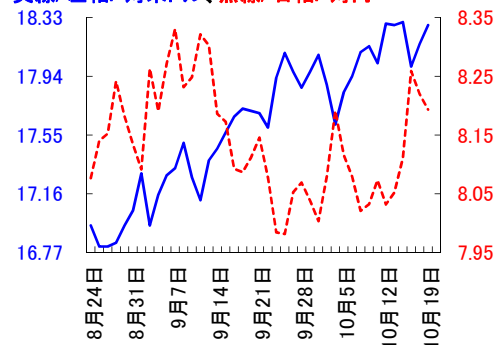
(10月20日～10月26日)

USD/ZAR: 18.000～18.400
ZAR/JPY: 8.10～8.30

向こう1週間の南ア・ランド相場は、安値圏における膠着を予想。ただし、仮に値幅が出るならランド反発方向を中心に見込むし、目先のことではなくても、年内には、対ドルで16.5水準を試すようなランド上昇の可能性を見る。ランド高を見込むのは、プラチナを始めとした南ア主要輸出品の価格に底打ちの兆しが見える一方で、4月以降、現在までに20%前後進んだランド安(対ドル)を反映して、南アの交易条件が明確に改善しているから。南ア交易条件の代替指数としてランド建プラチナ価格の推移を振り返ると、コロナ禍本格化(20年初頭)以前に11,000ランド/トロイオンス(以下同)前後から14,000前後まで水準を切り上げていたものが、21年前半には、一時、18,000水準まで続騰していた。20年後半から21年にかけて、南ア貿易/経常収支が目覚ましい改善(赤字縮小/黒字拡大)を見せた背景にこの交易条件改善があり、2021年後半以降は、コロナ対策関連支出が落ち着きを見せたことで、財政収支も明確に改善した。こうした動きを反映し、ランドは21年央までに13.50を上抜けるまで水準を切り上げたわけだが(対ドル)、その後、ランド建プラチナ価格が14,500水準を底値に横ばい推移してきたものが、足元、16,000を視野に入れる水準まで回復してきている一方で、ランドが対ドルで18.0割れ水準に低迷しているというのは、水準感が合わないように思われる。勿論、この間、計画停電が続いたことや、4月の洪水被害のような悪材料が重石になってきたのも事実だし、並行して、ドル全面高が進んだことも、ランドの水準感に大きな影響を与えたことだろう。それでも、南アが(電力需要の嵩む)冬を抜け、米連銀利上げの織り込みも大きく進んだ現状から、更にランドが下押しの余地よりは、水準調整的な反発を見る可能性の方が高いように思われる。こうした潮目の変化を促すきっかけとして、10月26日の中期予算政策声明(MTBPS)発表や12月の与党アフリカ民族会議(ANC)党首選などは格好の言い訳になり得るのではないかと。MTBPSでは南ア電力公社(Eskom)再建に向けた具体策(債務肩代わりなど)が注目される。ANC党首選では、ラマポーザ党首(大統領)の続投はほぼ確実と思われるが、党6役のどこまでを大統領側近で固められるかが注目されよう。

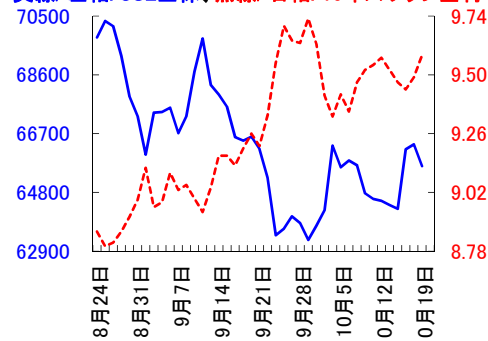
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		6.25%
長期金利(10年スワップ)	10月19日	9.580%
株価指数(JSE全株)	10月19日	65652.50
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	9月	+7.5%
小売売上高(前年比)	8月	+2.0%
製造業生産(前年比)	8月	+1.4%
鉱業生産(前年比)	8月	-5.9%
貿易収支(ZAR)	8月	+7.2bn
金価格(ロンドン17:00)	10月19日	1630.64

＜お知らせ＞

筆者退職に伴い、「南アフリカ為替週報」の発行は当面の間中断させていただきます。長い間ご愛読いただき、ありがとうございました。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。